

# 追悼と鎮魂 教訓を伝承

UN World Conference on Disaster Risk Reduction  
2015 Sendai Japan



赤坂 憲雄氏

## ■パネルディスカッション

「復興祈念公園の意義と目指すべき方向性について」



復興祈念公園の在り方を探ったシンポジウムは約220人の聴衆で埋まった＝仙台市青葉区の市シルバーセンター



阿部 聡史氏



牛尾 陽子氏



岡本 翔馬氏

「復興祈念公園の在り方を探ったシンポジウムは約220人の聴衆で埋まった＝仙台市青葉区の市シルバーセンター」

一石巻市と陸前高田市、それぞれの復興祈念公園に関する地域活動や、整備に

それぞれの復興祈念公園に、震災直後から調査分析を開始

一石巻市と陸前高田市、対する考えは、

自然や歴史の認識重要 阿部氏

訪れる人の思いを反映 岡本氏

面的に広がる物語必要 赤坂氏



**出席者**

＜コーディネーター＞  
造園家・ランドスケープアーキテクト 浦井 史郎氏

わくい・しろろ 神奈川県生まれ。東京都市大環境学部教授。『愛・地球博』(2005年)会場演出総合プロデューサー、国連生物多様性の10年委員会委員長代理、首都圏大規模改修検討委員長などを歴任。宮城県における復興祈念公園有識者委員会委員長。

＜パネリスト＞  
中井 検裕氏  
工学博士  
なかい・のりひろ 大阪府生まれ。東京工業大学大学院社会理工学研究科教授。1986年東京工業大学大学院理工学研究科博士課程満期退学後、東京大教養学部助手、東京工業大学工学部助教授などを経て、2002年より現職。岩手県における復興祈念公園有識者委員会委員長。

赤坂 憲雄氏  
あかさか・のりお 東京都生まれ。学習院大学文学部日本語日本文学専攻教授。1978年東京大学文学部卒業後、東北芸術工科大学を経て、2011年より現職。福島県立博物館館長、造園文化研究所センター所長、2011年震災復興祈念公園基本構想検討委員会。

阿部 聡史氏  
あべ・さとし 石巻市生まれ。東北芸術工科大学大学院、デンマーク王立芸術アカデミー建築学校、建築設計事務所を経て、現在は地理や風土に根ざす持続可能な環境設計手法をもとに地域計画に従事。石巻市都市計画審議会委員、宮城県における復興祈念公園基本計画空間デザイン検討部会委員。

牛尾 陽子氏  
うしお・ようこ 東京都生まれ。東京大経済学部卒業後、ロンドン大学大学院、百貨店のマーケティング担当役員を経て、2011年より現職。東北6県と新潟県の特産品を国内外に広くPR。総務省政策評価、独立行政法人評価委員会委員、宮城県における復興祈念公園有識者委員会委員。

岡本 翔馬氏  
おかもと・しよま 陸前高田市生まれ。仙台的大学を経て、東京で建築の仕事に従事。震災発生直後に現地入りし、あらゆる緊急支援を実施。2011年に陸前高田市へ戻り、13年より現職。岩手県社会貢献活動支援協議会委員、岩手県における復興祈念公園協働デザインワーキング委員。

仙台市を会場にした第3回国連防災世界会議で14日、パブリック・フォーラム「東日本大震災における復興祈念公園を考えるシンポジウム」(国土交通省東北地方整備局主催)が同市シルバーセンターで開かれた。大津波で甚大な被害を受けた石巻市と陸前高田市では、国営追悼・祈念施設(仮称)を含む復興祈念公園の整備が計画されている。震災から4年がたち、犠牲者への追悼と鎮魂や、記憶と教訓の伝承のための場が被災地には求められている。シンポジウムでは両市の復興祈念公園の基本計画案を有識者委員会の委員長がそれぞれ紹介した後、公園の在り方をパネル討論で多様な視点から議論した。

## ■基調講演

「石巻市南浜地区における復興祈念公園について」

造園家・ランドスケープアーキテクト 浦井 史郎氏



浦井 史郎氏

3・11の直後から、被災地には復興祈念公園の整備が計画されている。震災から4年がたち、犠牲者への追悼と鎮魂や、記憶と教訓の伝承のための場が被災地には求められている。シンポジウムでは両市の復興祈念公園の基本計画案を有識者委員会の委員長がそれぞれ紹介した後、公園の在り方をパネル討論で多様な視点から議論した。

街の記憶 重ね合わせる

浦井 史郎氏

追悼の空間と考え、中心にある善海田稲荷周辺に盛り土し、式典や伝承活動ができる中核的空間とする。街の記憶を残すための格格的な街路を残す。南浜町3丁目を街に暮らしがもたらしたことを実感できる空間とする。湿地環境を面的に整備し、人煙を再生する。公園内に避難場所として活用できる。計画地の自然的・二次的植生を歴史の形成された植生をモチーフに、公園の土地利用を考慮した植栽タイプを設定する。「杜々々々」という共通の目標に向かい、多様な主体が参加・協働する体制を整える。

「陸前高田市高田松原地区における復興祈念公園について」

東京工業大教授 中井 検裕氏



中井 検裕氏

陸前高田市は、大津波で岩手県内で一番大きな被害を受けた。先人が植林した木が守り育ててきた高田松原も「奇跡の本松」を残して全て流失した。高田松原は震災前、総合公園として整備され市民が日常的に利用していた。震災後、市民の要望もあり、市は初期段階から高田松原の再生と公園整備を構想。同年12月に策定した復興計画に位置づけられた重点計画の2番目に盛り込んだ。市民、市、県が一丸となって復興祈念公園としての整備を求める活動を行い実現を後押しした。

市民が使い育てる場に

定した復興計画に位置づけられた重点計画の2番目に盛り込んだ。市民、市、県が一丸となって復興祈念公園としての整備を求める活動を行い実現を後押しした。

参加者の意見を分析した結果、自然と共生しながら、教訓や伝承知識を継承していく術や南浜地区の思い出を感じられるようなデザインを施し、子どもから高齢者まで楽しめる空間や行事も合わせて設計することが求められていると感じた。持続可能な市民参加の公園づくりを求める意見もあった。大小のスケールから、若い世代の関心が薄いという結果が出た。みんな

絶えず思い積み上げる 牛尾氏

場所造りに終わらない 中井氏

居心地いい空間目指す 浦井氏

公園は特定の場所にとどまらず、岩手県や宮城県、さらには福島県にも広がるべき。公園は被災地だけでなく、被災地以外にも広がるべき。公園は被災地だけでなく、被災地以外にも広がるべき。

赤坂 憲雄氏

復興祈念公園の在り方を探ったシンポジウムは約220人の聴衆で埋まった＝仙台市青葉区の市シルバーセンター

復興祈念公園の在り方を探ったシンポジウムは約220人の聴衆で埋まった＝仙台市青葉区の市シルバーセンター

二〇一五年三月二十九日河北新報

企画制作 河北新報社営業局